# 第３回佐渡市地域振興官民協働委員会・地域活動支援員合同会議　議事概要

| | |
|---|---|
| 日　時 | 平成 25 年 12 月 20 日（金）　14：00～17：30 |
| 会　場 | 国民宿舎　海府荘 |
| 出席者 | 委員：松田祐樹、渡邉啓嗣、中野奈美子<br>支援員：坂本孝明、坂本辰巳、金子一雄、佐藤一富<br>協力隊：中村暢子、寺内栄樹、澤村明亨、李佳璘、渡辺南風、<br>小川佳奈子<br>地域振興課：藤原課長、斉藤係長、有田主任、池藤主事<br>総合政策課：佐々木主任 |
| 議　題 | １、地域づくり先進地視察研修内容説明<br>２、地域づくり先進地視察研修参加者報告<br>３、質疑応答及び意見交換～報告に関する質問、感想、要望～<br>４、その他 |
| 議事概要 | **１、地域づくり先進地視察研修内容説明**<br>■　委員長から先進地視察研修の概要を説明。<br>**小千谷市　平成商店街**<br>■　「紙絵（錦絵）で彩る小千谷のひいな祭り」が行われている。<br>**小千谷市　「わかとち未来会議」**<br>■　農家民宿「おっこの木」を経営している。<br>**津南町　結東集落**<br>■　中津川は紅葉がきれい。<br>■　佐渡にもあるＺ坂がたくさんある。<br>■　ＮＰＯ法人越後妻有里山協働機構が廃校を利用して「かたくりの宿」を経営している。そこで提供される食事は、どれも彩りがきれいだった。<br>■　石垣田がある。これを守るため集落外の人たちが保存会を発足した。（ろうそく 2,000～3,000 本の灯りで石垣田をライトアップする『けっとのほかげ』を H24・25 実施）<br>■　熊の毛干し（熊棚）がある。<br>■　新潟の橋 50 選に選ばれている「見倉橋」がある。<br>■　地域おこし協力隊として、三鷹出身の方が集落に入っている。<br>**魚沼市　ものずき村**<br>■　平成 19 年 7 月からスタートした。<br>■　年会費 1,000 円を支払うことにより、モノの販売ができる。地元の野菜や工芸品、松ぼっくりなども売っていた。<br>■　そば、漬物が絶品だった。そばの量が非常に多く、食べきれないくらいであった。<br><br>**２、地域づくり先進地視察研修参加者報告** |

| | |
|---|---|
| | Ａ委員<br>■　小千谷の絵紙は、イベントや文化の広げ方をもう少し工夫すれば、観光客をもっと呼び込めると思った。<br>■　結東集落では、協力隊が情報誌を集落１軒１軒に配布している。佐渡の協力隊も情報誌を作った方がいい。<br>■　協力隊や、ＮＰＯ法人、アーティストなど、若い人たちが揃っていると感じた。<br>■　魚沼市のものずき村は、仮想の村として１つのコミュニティを作り上げている。地域のリーダーや、素晴らしい人材が揃っている。<br>Ａ支援員<br>■　「わかとち未来会議」や結東集落で見てきたこと、体験してきたことを相川の達者集落でどう活かしていけるか考えていきたい。<br>Ｂ支援員<br>■　今回の先進地視察研修で訪れた集落は、どこの人も人柄が良く、役割分担がしっかりできていると思った。<br>■　集落の人たちが、自分たちの集落の良い所に気づいていないように感じた。<br>■　地域づくりに関しては、佐渡の方が進んでいると感じた。<br>Ｃ支援員<br>■　コミュニティの形や作り方、継続の仕方が参考になった。<br>■　中津川は紅葉だけでなく、新緑もきれい。<br>■　旅をして、自分の住んでいる所をもう１度見直す必要があると思った。<br>Ｄ支援員<br>■　小千谷のひいな祭りは、ひな祭りと絵紙を合わせて公開することにより集客増加を狙っている。<br>■　先進地の飲食店をまわってみて、佐渡の飲食店も集落独自の郷土料理などを出すべきだと思った。<br>■　魚沼市のものずき村を訪れた際、佐渡のいごねり（いご草）などを出品してほしいと言われた。<br>■　地域的にみれば、佐渡は他の所よりも豊富な資源に恵まれていると思った。<br><br>３、質疑応答及び意見交換～報告に関する質問、感想、要望～<br>Ｂ委員<br>Ｑ、「おっこの木」の運営方法は参考になった。「おっこの木」はどのようなものを販売しているのか。 |

| | |
|---|---|
| | A、これからは、しめ縄を販売していく予定。<br>Q、ものずき村は具体的にどのようなものか。<br>A、儲けることを目的とせず、仲間で集まって楽しむことを目的としてつくられた。<br>1,000 円の会費を支払ってくれている人は、現在約 200 人くらいである。<br>野菜から小物まで多種多様なものが売っている。野菜は日が経過するにつれ安くなっていく。<br>A協力隊員<br>Q、地域おこしを考えていく場合、どういう規模で考えていけば良いか。<br>A、協力してくれそうな集落から始める。集落単位でワークショップをやってみるのも一つの方法。<br><br>Q、地域のリーダーになる人はどのような人か。<br>A、実際に集落に入ってみると分かってくると思う。リーダーだけでなく、仕掛け人になる人も重要なので注目しておくといい。<br>B協力隊員<br>Q、住民に接する時、どこまで入りこんでいけばいいのか。また、要望はどの範囲まできいていけばいいのか。<br>A、まずは、地域住民に色々話を聞いてみるといい。また、色々なことをする上で、総代にはちゃんと相談したほうが良い。<br>Q、現在、松ヶ崎全体のことを誰に聞けばいいのかわからない。<br>A、聞く内容にもよるし、世代別に意見もさまざまだと思うので、誰といわず、色々な人に話を聞いてみるのが良い。<br>C協力隊員<br>Q、団体と団体でわだかまりがあるが、どうしたら良いか。<br>A、わだかまりは簡単にとれるものではないので、集落単位で見ていくなど、視点を変えてみてはどうか。<br>Q、新穂地区は 19 集落と非常に広いので、どのように見ていけばいいか。<br>A、２、３つの集落をピックアップして見ていくのも一つの方法。<br>D協力隊員<br>Q、ワークショップはどのように実施していけばよいか。<br>A、民話語りやお茶会など、軽いきっかけで人をまず集めてみると良い。<br>佐渡市<br>Q、コミュニティビジネスがなぜ必要ということになったのか。<br>A、自分たちの住んでいる地域の生活をより良くするため。また、 |

| | |
|---|---|
| | 地域の中に雇用を生み出すため。また、自立した地域づくりを行っていくため。<br><br>**４、その他**<br>特に無し。 |